医療法人惇慧会

外旭川病院だより

第17号
2025年1月

理　念

人間を大切にする企業風土をつくり
人間を幸せにする企業を目指します

指　針

1．何事にも積極的に挑戦します
2．創造力を働かせ、新しい価値を創っていきます
3．地域と共に生き、地域に貢献できることを喜びとします

基本方針

1．医療人としての自覚を持ち患者さんの命と尊厳を守ります
2．患者さんの人権とプライバシーを最大限に尊重します
3．地域社会の一員として地域の医療・福祉の充実に努めます
4．思いやりのある医療と快適な療養環境を目指します
5．自己研鑽に努め質の高い医療を提供します

副看護部長就任

思いやりの心を大切に

～患者の想いに寄り添う看護を目指して～



看護部
副看護部長
鈴木 典子

令和６年４月より副看護部長を拝命いたしました鈴木と申します。

私は平成１８年から外旭川病院に勤務しております。昨年から医療安全管理者を担当し、患者さんの安全や職員の安全の確保のために努めてまいりました。

副看護部長となった現在は、看護部長と共に看護部の理念と方針に基づき、看護体制を整えることを目指しています。具体的には、安全なケアの提供や職員が働きやすい環境づくりに取り組んでおります。

当院は慢性期医療と緩和ケアを担う医療機関として、看護と介護が協働しながらケアを提供しています。チーム医療で患者さんに寄り添い、その方らしい生活ができるよう支援していくことが私たちの重要な役割であると考えております。

ケアの提供には専門的な知識と技術が必要不可欠ですが、思いやりの気持ちがなければ、患者さんの気持ちを受け止めることは難しいと思っております。患者さんの思いを尊重したケアには、「優しさ」「思いやり」「誠実さ」が大切だと考えております。

日本は超高齢社会となっており、私たちを取り巻く環境は日々変化しています。働き手の減少や要介護者の増加は社会的問題となっており、当院においても限られた時間と人員でどのように安全なケアを提供していくか、重要な課題だと考えております。現状にとらわれず、柔軟な思考で改善に取り組み、働き続けやすい職場環境づくりを継続してまいります。

至らない点も多いかとは思いますが、これからも思いやりの心を大切にし、安全なケアの提供に努めてまいります。職責を果たすよう努力してまいりますので、何卒ご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

遺族の心に寄り添う「友の会」の再開

ホスピスボランティア　コーディネーター　寺永 守男



ホスピス病棟では、愛する大事な人を亡くし悲嘆を抱えるご遺族に対する継続したケアの一環として、年一回の遺族会の他に、月一回の「遺族友の会」を開催しています。

友の会は、同じような経験と思いを持つご遺族同志が、お互いその気持ちを分ち会うことを目的にしており、特に指名されたボランティア（現在は、2名）の方が開催・運営を担当して下さっています。コロナ禍で開催を中断していましたが、今年10月から再開し、現在参加者が少ない状況ですが、コロナ禍前は、毎回10名前後のご遺族が参加されていました。

会は、簡単な自己紹介から始まり、準備されたお茶やコーヒーでお菓子を食べながら（現在は、コーヒーのみ）話したい人から話が始まります。話される内容は、辛かった体験、現在抱えている辛さ、これからの問題等々色々ですが、立場と思いが共通しているため、お互い大きな親密感をもっていられるようです。

予定の90分を過ぎると、時間通りに閉会となりますが、色々思いを吐露した方も、ただじっと聴くだけだった方も、同じように「気持ちが少し楽なったようだ」「前が明るくなったようだ」等々、感想を述べられお帰りになります。

強い悲嘆から立ち直るには、2年程度の時間が必要だと言われますが、この会に参加していただき、少しでも早くそこから抜け出していただけることを願って当会の開催を継続していければと思いますので、関係部署のご支援をよろしくお願い致します。

季節を感じられる病棟の飾り付け

看護部 主任　鈴木　香



入院生活が長くなると、変化の少ない単調な日常が続くことが多いと思います。そこで、外旭川病院の各病棟では、少しでも患者さんに季節を感じていただけるよう、また、ご面会のご家族にも病棟の明るい雰囲気を感じていただけるよう、廊下やナースセンターに季節の飾り付けを行っています。写真を撮った頃は秋でしたので、イチョウの木や紅葉、栗、柿、赤とんぼなどを飾りました。患者さんからは、「柿だね」と秋を感じ、喜ぶ声が聞かれました。季節によっては、鯉のぼりや紫陽花、七夕、向日葵、ハロウィーン、クリスマスなどの飾り付けも行っています。今後も患者さんの入院生活をより良くできるよう努めていきたいと思います。

NEWS & TOPICS

5年ぶりの地域講演会！介護保険の基本を学ぶ

11月21日、5年ぶりとなる外旭川病院地域講演会が、外旭川病院5階ホールで開催されました。

今回のテーマは「介護保険」についてで、講師として外旭川介護支援センターの森下さんをお迎えしました。講演では、介護保険制度や利用対象者、サービスの費用などについて詳しく説明がありました。特に、介護保険をまだ利用していない方や、これから利用を検討される方にとって、大変分かりやすい内容でした。

講演後には多くの質問が寄せられました。たとえば、「施設に入所するにはどうしたらいいですか」や、「介護保険を利用しなくても参加できる、軽い運動やリハビリを続けられるサービスはありますか？」といった質問がありました。



森下さんからは、「一人ひとりに合ったさまざまなサービスがありますので、まずはぜひ一度、居宅介護支援事業所や地域包括支援センターにご相談いただければ、適切なサービスをご紹介できます」との回答がありました。今後も、さまざまなテーマで地域講演会を開催する予定です。次回の開催については、改めてお知らせいたしますので、ぜひご期待ください！

Our Team
部署の紹介

認知症ケアチーム

認知症看護認定看護師 石川　和子

当院の認知症ケアチームには認知症サポート医、認知症看護認定看護師、社会福祉士、病棟看護師、さらに介護士、薬剤師、理学療法士、作業療法士が所属しています。認知症の患者さんが治療のために入院された日から、認知症症状の悪化を予防し、身体疾患の治療を円滑に進められるよう、多職種で検討し対応しています。

認知症というと、アルツハイマー型認知症がよく知られていますが、他にもいくつかの種類があります。私たちのチームでは、認知症の特徴や症状をもとに、患者さんが困っていることや不安に感じていることなど、患者さんがうまく伝えきれない生活のしづらさに寄り添いながら、連携して援助を行っています。

認知症の患者さんに共通していることは、「不快」や「心地よい」の感情は残っているという点です。患者さんが「心地よい」と感じていただけるよう、当院では「認知症マフ」の活用を始めました。「認知症マフ」は筒状のニット製品で、落ち着かない手を穏やかに温かく保ち、感覚や視覚を刺激することで心身の緊張をほぐし、安心感をもたらすとされています。

認知症の患者さんが穏やかに入院生活を送れるよう、これからも活動を続けます。





↙認知症ケアの新しい形。心も手も暖かく包み込む。

安心安全のための院内研修 ～患者中心の医療を支える教育体制～

事務部 事務次長 佐渡 悠記

当院では、患者さんが安心して入院生活を送れるよう、さまざまな研修会を企画し、開催しています。法律等で定められた研修のほか、入職時・中途採用者研修や接遇研修なども毎年実施しています。また、e ラーニングを活用した研修を行う体制も整備しています。今年度に開催した研修内容は以下のとおりです。

- »患者の権利と責務、臨床倫理指針、人生の最終段階における医療・ケアの指針
- »医療被ばくと放射線診療の正当化
- »輸血マニュアルの改訂
- »最近のコロナ検査の結果に関する研修
- »認知症ケアに関する研修
- »人工呼吸器講習会
- »輸液ポンプ講習会
- »看護補助体制充実加算に係る研修
- »AED の使い方
- »PMDA 医療安全情報
- »医療ガスの取り扱い方法
- »手洗い・手指衛生
- »認知症患者のアセスメントや看護方法等の研修
- »身体的拘束の最小化に向けて
- »転倒防止について
- »個人情報の取り扱いについて

今後も、患者さんへ安全で安心な医療・福祉を提供できるよう、院内研修を継続していきます。

協力と正確さで病院を支える経理の仕事

事務部 経理担当 伊澤 可苗



事務部 経理担当の伊澤と申します。業務紹介をするにあたって、「経理」とは何なのか、改めて調べてみると、「企業の経済活動に関わるお金や取引の流れを記録・管理する業務、会計業務のひとつで会社経営において必要不可欠な部門」とありました。私が担当しているのは、その中の一部分になります。

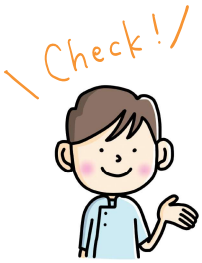
入院費などの収納業務、また、研修費や購入品の支払い（振込み）など、科目ごとに処理をして仕訳をします。入院費については、窓口での現金払い・クレジット（デビット）カード払い、銀行口座への振込払いと 3 種類あります。窓口での支払いは、土日祝日も可能となっているため、日直を行う事務部職員全員が対応できます。経理担当は私一人ですが、皆さんのご協力のもと練り立っている仕事です。帳簿上の貸借一致、現金との一致を確認し一日を締めています。仕事に慣れても、お金には慣れないよう、また、慌てず、正確に処理することを続けたいと思います。

フレイルとは？

加齢に伴う変化を乗り越えるために！

リハビリテーション科
科長　保坂 真子

歳をかさねて身体が衰えている、疲れがとれない、人と会うのが億劫だと感じることはありませんか？フレイルかもしれません。フレイルとは、身体機能や認知機能が低下し、健康と要介護の中間的状態になったことであり、適切な対策により元の状態に戻ること、予防することができます。加齢により体力や筋力、認知機能などは自然に低下していきますが、その変化は人それぞれで個人差も大きいです。いち早く変化に気づくことが大切です



- ☐ 歩く速さが遅くなった
- ☐ 何だかすぐに疲れる、息切れがする
- ☐ ペットボトルのふたが開けられない
- ☐ 人と会ったり、外出したりが億劫になった
- ☐ 体重が減った

＊３つ以上該当：**フレイル**、１～２つ該当：**プレフレイル**



今日から始めるフレイル対策：３つの習慣を見直そう！

1 日常生活のなか運動を取り入れましょう

運動は無理のない内容で継続できることが大切です。ウォーキングやランニング、ジムでの筋力トレーニング、ラジオ体操、庭の手入れなど興味があり楽しくできる活動を選択するのがおすすめです。エレベーターではなく階段、テレビみながら足踏みなど普段の生活で身体を動かすことを意識することから始めるのもよいでしょう。



2 栄養をしっかり摂りましょう

３食しっかりとバランスの良い食事を摂りましょう。食事を美味しく食べるためにしっかり噛むことや舌の動きを意識し口まわりや舌の筋力アップを目指しましょう。

3 社会参加の機会を持ちましょう

社会参加が少なくなることがフレイルの入口ともいわれています。自治体（地域）で開催している運動教室や趣味教室、イベントが多数あるので外出や運動習慣のきっかけになります。活動への参加、人との交流の機会を増やし、こころの健康を保ちましょう。

新入職員紹介

挽野　恵（令和６年４月入職 看護師）

この春、夫は起業し、２人の娘はそれぞれ大学と高校へ進学しました。それを機に、自分も負けずに心機一転しようと思い、以前は産婦人科で働いていましたが、４月から４病棟でお世話になっております。気が付けば半年が過ぎ、気合だけで何とか乗り切ってきたように感じています。まだまだ病棟の戦力とは言えませんが、温かくサポートしてくださる上司や先輩方には感謝しかありません。日々の関わりや学びを大切に、これからも努力してまいります。

目黒 千尋（令和６年７月入職 看護師）

以前は外科病棟で働いていたため、初めての療養病棟での勤務に不安がありました。しかし現在は、少しずつ仕事に慣れ、先輩方の丁寧なご指導のもと、日々学びを大切にしながら働くことができています。これからも患者さんやご家族に安心して安楽に過ごしていただけるよう努めて参ります。よろしくお願いいたします。

医療法人 惇慧会
外旭川病院
〒010-0802 秋田市外旭川字三後田 142
TEL 018-868-5511　FAX 018-868-5577
https://jkk-sotohp.or.jp/sotohp/

日本医療機能評価機構 認定第 LL54 号

- 病床数 241床（療養病棟 207床、緩和ケア病棟 34床）
- 診療科目 /内科、皮膚科、リハビリテーション科

